

令和 6 年度第 1 回 半田市総合教育会議 会議録

開 催 日	令和6年5月 27 日(月)10:00～11:45
開 催 場 所	半田市役所 庁議室
構 成 委 員	半 田 市 長 久 世 孝 宏 教 育 長 鈴 川 慶 光 教 育 委 員 桂 優 子 教 育 委 員 新 美 大 教 育 委 員 久 米 宏 和 教 育 委 員 正 村 日 登 美 教 育 委 員 堀 崎 隆 資
構成委員以外 の 出 席 者	教 育 部 長 森 田 知 幸 学 校 教 育 課 長 内 藤 誠 主 任 指 導 主 事 木 下 稔 章 学 校 教 育 課 主 査 羽 根 広 企 画 部 長 山 田 宰 企 画 課 長 中 村 省 吾
議事録作成者	企画課副主幹 内 田 敦 士
協 議 事 項	・ 令和 5 年度重点的な事業の実績報告等について ・ 幸せになるための教育に関する取組について

〈 開会 10時00分 〉

1 市長あいさつ	(市長) 皆様方には大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今年度からこの時期に開催する理由は、3 か年実施計画から始まる政策決定サイクルに合わせて、来年度、また 3 年先を見越し、どのように取り組んでいくかを市長部局としても考えていきたいためです。本日は、令和 5 年度の教育行政全般に係る報告と、皆様のおかげで進んでいる幸せになるための教育の実現を 1 年間取り組んだ結果、見えてきたことを意見交換したいと思います。様々な場面でご協力いただいているところではありますが、私どもと一緒に半田市のため、子どもたちのために、この総合教育会議が一助となることを期待します。短い時間ですがどうかよろしくお願いをいたします。
2 教育長あいさつ	(教育長) 教育・子育てを重点政策に掲げ、支援いただき、ありがとうございます。施設関連では乙川中学校が新しくなり、亀崎小学校、給食センターが建設中、公民館の整備も計画的に進めていただき、重ねてお礼を申し上げます。1 学期も半ばを過ぎ、運動会や修学旅行を実施した学校があります。運動会についてはコロナ禍以降で、種目を減らし午前中の終了の開催には賛否があるわけですが、子どもたちは楽しそうでした。昨日はスポーツ課が 3×3 バスケットボール大会を生涯学習課や産業課と協力して開催し、みんなが一緒に楽しく実施できました。これからも、いつでもだれでも楽しく、スポーツや文化に触れることができるをコンセプトに進め

	てまいります。 市長からの提言をいただいたため、キャリア教育をベースとして幸せをテーマに取り組んでいます。胸を張って得られた成果を説明できるレベルではありませんが、進めておりますし、今後も良い学校、地域になるよう取り組んでいきます。よろしくお願いします。
3 協議事項 (1)	(学校教育課長) 幸せ教育に関することを除く、重点的な 6 事業について資料に基づき説明 (市長) 5点目の情報機器整備/ICT 教育推進によって、教員の負担軽減はどれぐらい進みましたか。 (学校教育課長) 個人差が大きいです。最初の準備は大変ですが、その後の運用は改善されています。特に子どもから意見を集め、共有することや集計することはタブレットで行えるため、ずいぶん楽になったと思います。不慣れな教員には研修の実施や支援員を配置し、活用を図るよう促してまいります。 (教育長) アプリの導入により出欠確認は負担軽減につながっています。また、すべての授業に使うことが負担軽減につながるわけではなく、効果的な使い方もわかってきたと感じます。ただし、個人差、学校差があることも事実です。 (市長) 十分に使い切れていない教員はいませんか。不慣れな教員に対する対応はどのようになっていますか。 (教育長) 不慣れな教員はずいぶん減少したと思います。 (教育部長) 学校教育現場では教員間で学びあう文化があると思います。周辺市町に比べ、導入は進んでいると思いき、当初考えていたよりも速いスピードで活用できるようになっています。 (堀崎委員) 通級指導教室についてです。半田中学校は2教室になっています。ほかの学校でも増やす要望もあると思いますので、課題としてとらえてほしいです。必要な書籍や備品が十分に準備できないといった環境の解消や、指導員の質を確保することも重要です。 (教育長)

	学校からの要望を待つだけでなく、学校訪問時に実態を確認します。 (久米委員) 日本語初期指導事業におけるタクシー送迎の費用は誰が負担していますか。また、対象者は何人ぐらいいますか。 (学校教育課長) 令和5年度は日本語初期指導事業を委託している NPO 法人が県の補助を受け実施しました。令和6年度は 140 万円ほどの予算を計上し、市が負担しています。対象者数は手元に資料がありませんが、かなりの子どもが対象になります。なお、1年で3クール×10人、外国籍の多い小学校で実施します。今年度は乙川東、横川、さくら小学校で実施することになっており、それ以外の小学校から2～3人程度参加しますので、その子どもたちのタクシー代です。 (桂委員) 不登校のことが愛知県の教育委員会連合会の理事会では取り上げていました。全中学校に教育支援センターを設置する、養護教員を増員するなどの取組をしている自治体がありました。半田市においても自宅から近くて通いやすい環境を整えることは良いことと考えます。 (教育長) 別の中学校区内にある方が行きやすいという考え方も聞きます。また受け皿として子ども食堂が役割を果たすため拡充を図ったり、遠方の施設を利用したい場合のバス代の心配解消など、子どもたちが選べる環境づくりを進めていきます。 (新美委員) いじめ件数が横ばい、不登校が増加傾向。そもそも今取り組んでいることや不登校を減らさなければならないという考え方が正しいのか疑問に感じる時があります。 (教育部長) 発言は理解できます。これまで半田市は、不登校になった子どもの復帰に重点を置いて取り組んできましたが、現在は、新たな一人を出さないための取組をしています。しかし、新たな一人を出さないための取組についても結果を出す方法がわかっているわけではないので、試行錯誤しています。子どもは不登校が増えることは望ましくなく、学校に来てほしいというスタンスは変わっていません。
(2)	(学校教育課主任指導主事) 資料に基づき説明 (市長) 教育委員会で進めていただきありがとうございます。さらに進めていただけると嬉しく思います。頂戴したご意見は来年予算に反映していき

たいです。

(正村委員)

「幸せ」を継続して発信していますので、教員にも意識づけが進んでいると思います。最終的には個々の幸せが平和につながっていくのではないかと思います。教科担任制を進めることで教員の負担軽減につながると良いと思います。プール委託が進められていますが、教員が考えているよりも負担軽減になっていないとの声を聴きます。インストラクターに任せる部分を増やすことはできませんか。

(学校教育課長)

技術的な指導はインストラクターに任せている点がありますが、授業の一環である限り、教員資格を持った者が組立、指示、指導することとしています。

(正村委員)

教員がプールに入らず、授業を組立て、指示するよう改善ができれば、負担の軽減につながると思います。

(教育長)

別の自治体ではプールに入らないことがあることは聞いていますが、半田市は教員免許を持った者が主として指導することを原則と考えて、教員もプールに入るように指示しています。一度、国の判断を確認します。

ただし、負担軽減については、委託先のインストラクターが授業を助けてくれることや、掃除や水質の検査などの雑多のことから解放されたため、進んでいると思います。

(堀崎委員)

板書による実践事例が蓄積されていると思いますが、活用方法について教えてください。良い取り組み事例は単元計画の共有や先生の活用しやすさを改善してもらおうと「幸せになるための教育」が広がると思います。

(久米委員)

資料を見ると高評価の印象ですが、考えるだけでなく、その先の子どもたちの幸せにつながっているかが知りたいです。6 ページの上段の「最近、幸せとを感じることはありましたか？」は良い設問だと思いますので、各校の判断ではなく全校のアンケートの項目に入れると良いと思います。

(学校教育課主任指導主事)

今回は価値観の違いもあることから、必要に応じ各学校で考えてアンケートを実施することとしました。ただし、今後については改善に向け検討します。

	(久米委員) 幸せを考えることができたけれども、幸せを感じることができなかった場合、どちらが大切かといえ、考えることよりも感じることであると思いますので、そのあたりがわかるアンケート作成をお願いしたいと思います。 (新美委員) 令和 5 年度の学校での取組として合格点が得られる成果であったと評価しています。横川小学校の卒業式に児童の将来の夢が書かれているものを見ましたが、「幸せ」、「ハッピー」を4人ぐらいの児童が書いていました。過去はあまり見た記憶はありません。学校での取組の成果だと感じました。今後は「ハッピーウイーク」だけの取組にしてはいけないと思います。 資料に記載されている課題を改善していくには、提言書にも記述があった各教員が主体的に考えて取り組むことが重要です。成果は簡単には出ないと思いますが、子どもたちが大人になった時にも「幸せ」とは何かを考え続けられるベースをしっかりと作ることが大切です。また、毎年バージョンアップする方法を考えていく必要があります。 (市長) バージョンアップには蓄積されるデータの活用が必要です。教員の負担や効果も考えながら、うまく活用される方法に費用が発生するのであればしっかり検討したいです。各学校、各教員が主体的に自由に考え進めていくことは、非常に重要です。皆様からも機会があれば、学校、教員に伝えてください。私も良い方法については考えていきます。 (桂委員) 教員と子どもたちが楽しそうなこと、取り組んでいきたいことなどを気軽に対話できる機会が継続できれば、目指すべき幸せになるための教育の実現に近づいていくと思います。また、蓄積された授業データは立場の違う市長や親の視点や評価を伝えることで、別の教員が興味をもってくれる可能性が高まると思います。例えば、「市長のおすすめ授業」と銘打ち、教員に紹介するなどです。 (市長) 教育委員の皆様の意見も踏まえながら、「幸せになるための教育の実現」にむけ、考えていけると良いと思います。 引き続き「幸せになるための教育を実現」に取り組み、教育委員会と市長部局が協力して進めていくことを今回の総合教育会議の合意事項としてよろしいですか。 (教育長・教育委員) 異議なし
4 その他	(堀崎委員)

教員の対応技術が向上できれば、不登校は減らすことができると思います。成岩小学校の校長時代に花輪敏男さんから学んだことを、実践し、不登校対応する教員にアドバイスした結果、不登校児童を 8 人から 0 人に減らしました。すべてに有効かはわかりませんが、教員の技量を上げることで減らすことはできると思います。8 月 26 日に市内の一部の教員にセミナーを行います。

(新美委員)

部活動改革について、教員の負担軽減見込みを含めて進捗状況を教えてください。

(教育部長)

他市町と比べると、半田市は地域で受け入れる土台がありますので順調だと思います。ただし、簡単なことではありませんので、学校と地域との連携をさらに進めていく必要があります。

また、ある日をもって学校から地域に完全に移行します、移行後はこうなりますよ、というようなものではありません。令和 6 年 9 月から土日の学校の部活は実施しないことが決まっていますが、その後の姿は受入を行っていくスポーツクラブや協会などが決めていくことになりますので、学校が示すものではありません。

(教育長)

学校から、地域での受け皿情報を提供することができます。その情報を参考に保護者が判断することになります。

(新美委員)

保護者は情報を求めていると思いますが、どの程度の情報が学校から示されますか。

(学校教育課長)

受入が決まっている団体については、種目や活動場所は示すことができますが、会費などはまだ決まっていない団体もありますので、提示することができません。子どもたち、保護者のために、地域団体との協議をもっと早く始めた方が良かったと反省しています。

(新美委員)

教員に負担を強いるようなやり方に戻ることだけはしないでください。

(教育長)

戻ることはありません。ただし、移行タイミングでの若干の混乱、問題点は承知しています。

(正村委員)

部活動をやめることによる子どもの体力低下を心配する保護者もいると思います。休日部活動は学校では実施しないので、あとは知らないではなく、地域とのつなぎ役を学校、教員に期待しています。

	(市長) 私の保護者の視点では、部活をしなければならないという考え方でなくて良いと思っています。当事者として学校任せではなく、家庭でしっかり考える必要があります。私は、地域移行という言葉も適切ではないと考えています。なぜなら、スポーツや文化活動を学校や地域が担うことが当たり前であると誤解されているように感じるからです。 (教育長) 市長の発言は正しいと思いますが、学校、教員は子どもたちのことを考えると、そこまで割り切れずに悩み、苦しんでいます。 (正村委員) 土日の部活動を学校が実施しなくなるについて、保護者の考え方も変えていかなければならないと思いますが、子どもたちの居場所は考えてください。 (市長) 居場所が十分であるとは言えませんので、スポーツクラブなども含め考えていきます。まずは、家庭で土日のことを話し合って、やりたいこと、やらせたいことを決めて、行政や学校に相談できる体制づくりが必要だと思います。
--	---

〈 閉会 11時45分 〉